

【22_190思考系メルマガ】「簡単なチャート」は見ればわかるのに・・・

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。今週もお疲れ様でした！

あとでチャートを見返したりすると

「こんなに簡単な値動きなんて見逃したんだろう」

とか

「なんでこんなに動きも悪くて難しい所でポジポジしたんだろう」

とか、後悔の念が吹きあがってくる、という人は結構多いかと思います。

実際、そのような相談もたくさん僕のところにやってきます。

過去の自分も、そんなことを考えたのは1度や2度ではなかったですし

多くの人がそう考えるということは、そうさせる「何か」があるのでしょう。

一方で、何故それが起こるのかを考えることで、対策を考えることも可能だということです。

今日はその原因と対策をひも解く感じで、言語化を試みようと思います。

□
└─ ■ どこまでいっても、『先の値動きはわからない』と認めよう
└──────────────────────────┘

僕は常々、『チャートの右端より先の値動きを予見することはできない』と言っています。

もしそれを出来る人がいるとしたら、相場でその人が利益を独占出来てしまうでしょう。

『相場』が成り立たないわけです。

明日、どこで地震が起こるかを言い当てることが出来ないのと同じように

値動きとは先の読めない未来の出来事の『結果』によってどんな出方をしてくるか分からないものであると

何度でも自分に言って聞かせないといけません。

そうは言っても、後で出来上がったチャートを振り返ると

「なんであの時・・・」という気持ちが湧いてきてしまうのは

その時の『先のことがわからない』という状況を、結果を見たその時に“再現”ができないからなのです。

なぜなら、その時には『結果』が見えちゃってるからです。

だから、僕は「過去検証」と「フォワードテスト」はセットでやらないといけない

ということも常々お伝えしているわけです。

▼当時のツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1543118284542943232>

先日公開したYouTube映像でも、トレードノートを活用して

普段の自分の考えを言語化することの重要性をお伝えしてきましたが

今回の話とも深く通じるものがあります。

どういうことかというと、

「あの時に、チャンスだったはずの動きを結果として捉えられなかった原因は何なのか？」

「では、今後どうすればそれに対処できる可能性が高まるのか」

その時の考察が的外れでもいいのです。

違ったなら、また別の仮説を立ててテストをすればいい。

最終的に、それが自分のモノにできてしまえば、しめたものです。

トレードの技術向上というのは、このような地道なデータの収集と仮説の設定、そしてテストの繰り返しです。

手法を理解すればスムーズに勝てるようになるほど、トレードというのは甘くはありません。

厳しいものですが、それだけにこの技術をモノにできた時に得られる見返りは苦労した以上のものとなって戻ってきます。

自分にとっての『納得』が得られるよう、今日の話が参考になれば幸いです。